



つきなみ旅

つきなみ旅エクスカーションプログラム
vol. 11

暮らし調う、 植物教室。 暮らしクラス

2025
8月30日(土)
10:00 スタート
受付開始
9:45-

みやま市の人々は、いにしえより植物と共に生きてきた。植物文明である長江文明を担った人々の末裔が有明文化圏に移り住み、稲作を始めとする植物と共生・共奏する文化を育んだ。

参加費

2000円

・酵素ドリンクとお菓子付

集
合
場
所

雑木の庭「武蔵野」
みやま市高田町海津345

催行者

雑木の庭「武蔵野」

ご予約
お問合せ

プログラム

みやまブランディング
推進委員会

〒835-0023 みやま市瀬高町小川5
(みやま市商工観光課)

TEL 0944-64-1523

「暮らし調う、植物教室。
—暮らしクラス—」
詳しくは裏面をご参照ください。



みやま市の人々は、いにしえより植物と共に生きてきた。

植物文明である長江文明を担った人々の末裔が有明文化圏に

移り住み、稲作を始めとする植物と共生・共奏する文化を育んだ。

「くらし調う、植物教室。―暮らしすクラス―」

植物文明である長江文明の担い手たちは、楠や榎の大木で船を仕立て有明海にたどり着きました。先住である、旧石器や縄文土器を扱う人々と共に倭人（海人族）として、稲作を始めとする植物と共生・共奏する文化を基軸にくらしを調えてきました。有明文化圏に根ざすみやま市には、いにしえより植物と調和し生きてきた歴史があります。そうした営みを現代のくらしに再び取り入れることにより、持続可能でウェルビーイングな暮らしのヒントを得ることができます。

今回は、一年を通じて季節の植物を生かしたナチュラルな庭づくり・暮らしづくりをされている「雑木の庭 武蔵野」で、植物を取り入れることによって見えてくる「ウェルビーイングな暮らし」について、愉しく学べる会「植物教室」を開催します。これを機に、日々のくらしの中で植物を愉しみ仲良くする知恵を学んでみませんか？

プログラム

9時45分 受付開始

10時00分 プログラム開始

- ・季節の植物の生け方について
- ・フリートーク「植物で暮らしを豊かにするとは？」

11時00分 アンケート記入

12時00分 終了

開催日 令和7年8月30日(土)

時間 10時スタート(受付開始9時45分より)

集合場所 雑木の庭「武蔵野」みやま市高田町海津345

開催場所 雑木の庭「武蔵野」

参加料金 2000円

定員 10名(最少催行3名)

お土産 酵素ドリンクとお菓子付



くらし調う、
みやま有明。

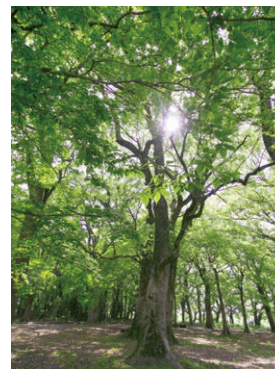
つきなみ旅連載コラムvol.11

植物文明

「植物と共生・共奏する桃源郷のくらし」

とうげんきょう

長江中下流域で栄えた長江文明(14000～3000年前)を担った人々の末裔に、現在では山岳地帯に住む苗(ミャオ)族がいます。言葉(苗)が示す通り、「稲作、養蚕、漆器、茶、竹細工」などの植物を中心としたくらし・文化に特徴があります。苗族語では、稲のことを「nnei」(んね)と言います。すなわち、日本語のイネの語源と推測されます。この人たちの末裔、呉や越の人々が国を追われ有明文化圏に移り住み、稲作を始めとする文化を伝えました。魏志倭人伝に書かれた「邪馬臺」という言葉も、現地では「やまと(山人)」と読むそうです。すなわち、倭人は山に住む人と表現されていたようです。山に住む稲作漁労民として捉えられていたのです。1600年前の江南で、陶淵明という人が描いた「桃源郷」という概念は、洞窟の先にある美しい水田の風景と人々の暮らしのことでありました。このような背景を持つみやま市で、持続可能でウェルビーイングな暮らしを目指し、植物と共生・共奏する桃源郷を創っていきましょう。



ブランディングアドバイザー

福井 隆

東京農工大学大学院客員教授
地域生存支援LLP代表
「地域で生きる、希望をつくる」
事業化支援ファシリテーター

誇り高き地域の歴史と伝統

清水さんの『きじ車』

清水系のきじ車は、古くから清水寺の参詣土産を担い、伝統的な技術を代々継承する地元の職人によって作られてきた郷土玩具です。

その由来は、天台宗の開祖である最澄が、唐から帰国(西暦806年)して現在のみやま市の山の中で道に迷っていると、一羽の雉が清水寺を開く場所に案内したという伝承をもとに、清水寺25代目の住職が造らせたのが起源といわれています。

このみやま市のきじ車を含めた、「九州地方のきじ馬・きじ車製作技術」が、この度、国の文化審議会において、「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択されました。9月27日に九州芸文館で開催される「船小屋クラフトマーケット」では、特別企画「がんぐまつり玩具祭」が同時開催され、現存する福岡県みやま市と大分県・熊本県のきじ車(きじ馬)が勢ぞろいします。各保存団体や収集家の協力もあり、きじ車の削りや色塗り体験の他、現在は、もう製作されていない幻のきじ車が一堂に展示される予定です。正しい道へと導いてくれる縁起物の「きじ車」。一つは、持っていたいですね。

